※令和４年度以降入学生用

学校番号	３００４

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	数学Ｃ　STANDARD　（東京書籍出版）						
副教材等	WIDE　数学Ｃ　（東京書籍出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学は難しいものであると思われていますが、しっかりと勉強を積み重ねていけば理解できるものです。まずは授業をよく聞いて内容の理解に努めましょう。内容が理解できたと思ったら、問題を解いてみましょう。問題を解くために頭を働かせることで数学の理解が深まります。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書き残しておきましょう。また、各自で答え合わせをしましょう。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知る大切なものです。しっかりとした心構えで学習を続けてください。

２　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

観点の趣旨	数学 C における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることができる。	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察できる。 また，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察できる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしている。 また，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	ベクトル	1. ベクトルとその意味 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	a: ベクトルの加法・減法・実数倍などを代数的・幾何的に求めることができる。ベクトルの内積の記号や成分との関係を理解し，与えられた問題に活用できる。 b: ベクトルを図形的に捉え，その記号の表現方法を理解している。成分によるベクトルの演算やその大きさを求める過程を適切に表現し，処理することができる。 c: 新しいベクトルの考え方や用語・記号を進んで習得しようとする態度を示す。ベクトルの内積の考え方に興味・関心を示し，進んで理解しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出物	提出物 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	ベクトルの応用	1. 位置ベクトル 2. ベクトルの図形への応用 3. ベクトル方程式	a: 位置ベクトルを図形的な問題に利用できるよさがわかる。直線のベクトル方程式における媒介変数や方向ベクトルの図形的な意味がわかる。 b: 位置ベクトルを適切に表現し，問題に活用することができる。直線や円をベクトルを用いた方程式で表現することができる。 c: 階差数列などのいろいろな数列について、その考え方を理解しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出物	提出物 振り返りシート
2	複素数平面	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド･モアブルの定理 4. 複素数の図形への応用	a: 複素数の和，差及び実数倍の図表示を，ベクトル和，差及び実数倍と関連付けて扱うことができる。複素数の乗法・除法を，その回転と拡大･縮小として考察できる。ド･モアブルの定理を用いて，累乗の計算や二項方程式を解くことができる。 b: 複素数を極形式で表し，乗法・除法をその回転と拡大・縮小として処理することができる。累乗の計算や二項方程式を，複素数の幾何学的意味と関連付けてとらえることができる。 c: 複素数を複素数平面上で表し，諸性質を用いて考察しようとする。いろいろな図形を，複素数平面を利用することで考察し，その有用性を理解しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出物	提出物 振り返りシート
3	平面上の曲線	1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2 次曲線の平行移動 5. 2 次曲線と直線 6. 軌跡と 2 次曲線	a: ２次曲線の個々の特徴を理解し，分類することができる。 b: 2 次曲線の準線，焦点など，図形的な特徴を表現することができる。 c: 2 次曲線の図形的な性質について調べようとする	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出物	提出物 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度